

神戸市立青陽須磨支援学校 学校評価報告書

校園長名 竹内 寛子

記入者名 小谷 康弘

り学校目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自立を目指し、笑顔あふれ、夢ふくらむ学校。 ・保護者に信頼され、地域の人たちに愛される学校。 					
	内容	重点的な取組み	評点 (4段階)	特記事項 (学校自己評価)	関係者評価 (学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等)	学校自己評価、関係者評価を踏まえた 次年度の重点的な取組みの案
(教育目標) 人権ファースト～「人権尊重」に根差した子供理解・支援・指導の推進～						
育てたい子供の姿	児童生徒一人一人に応じた教育活動の実践	ICT機器を活用した授業実践	3	ICT機器の活用の幅を広げるため、研修を多く行い、授業に積極的に取り入れることができた。	PCとテレビを連動させた画像や動画を取り入れ、子供たちにとって分かりやすい授業ができていた。	I-PadやPCを使って、児童生徒が主体的に機器を使って学習に取り組めるようにしていきたい。
	豊かな心の育成	自己肯定感・自己有用感を育成し、心を育む教育を「特別活動の教科「道徳」や性教育等を通して推進する。	3	性教育を授業に取り入れるだけでなく、道徳を定期的に取り入れた。	教師の子供たちへの関わり方が優しく、子供たちが伸び伸びと明るく活動に取り組んでいる。人間関係ができる。	道徳を授業に積極的に取り入れていく。
	安全安心な学校づくり	「ヒヤリハット」や「アクシデント」の報告の徹底と事例の共有	4	事案が発生した場合、すぐに報告書を作成し、全職員に回覧。共通理解することができた。	ネガティブな内容についても共有していくことで、安心安全な学校生活が送れるようできている。	発生した事案を全教職員に分かりやすく、リアルタイムで共有して、再発防止に努めていきたい。
全市的に推進すべきこと	①いじめ防止対策に関する取組み	いじめアンケートの実施（毎学期）	4	いじめのアンケートを学期毎に全児童生徒に実施した。自分で記入が難しい場合は、保護者からの聞き取りで行った。	保護者や児童生徒とコミュニケーションを密接にとり、いじめ防止に積極的につとめることができている。	授業の中で、いじめについて取り上げ、いろいろな場面における対応について学習する機会を設けていく。
	②不登校支援の取組み	家庭連絡、家庭訪問の実施。	3	定期的に電話連絡を行い、長期にわたる場合は、積極的に家庭訪問を行って、児童生徒とのつながりを維持することができた。	児童生徒の実態をよくつかみ、保護者や児童生徒と定期的に連絡をとって支援につとめられている。	学校からの対応だけでなく、関係機関と積極的に連携を取り合い、学校との結びつきを強くするようにする。
	③教職員の業務改善	毎月教育改善アンケートを実施し、検討、改善し提案する。	3	毎月、教育改善アンケートを実施した。改善案を提案、審議し、改善につなげることができた。	電話対応を8時から17時にするなど、業務を改善することで、教材研究や児童生徒と関わる時間を確保につなげようとしている。	保護者や児童生徒の目線に立った学校側の業務改善にも取り組んでいく。
	④「すぐーる」の活用、ホームページにおける情報発信	家庭からの欠席連絡、学校からの行事、学校だより、連絡等の配信。	3	保護者からの欠席連絡だけでなく、行事予定や連絡事項をすぐーるで発信。ホームページとともに活用した。	遅刻、欠席連絡が簡単にでき便利になったが、学校側からも返事ができるようになるといふと思う。	すぐーるの活用を引き続き充実させるとともに、ホームページにさらに学校の活動についての内容を多く盛り込んでいくようにする。

【評点】 4 : 十分達成できた 3 : おおむね達成できた 2 : どちらかと言えば課題がある 1 : 課題がある